

市民のひろば



もやし1袋20円
土曜日で

市民の声 母親大会へのおさそい

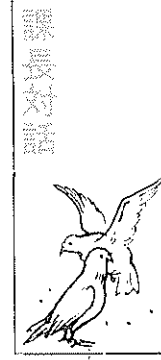
暑い夏がやって来ましたが、いつも母親運動への協力を心からお礼申し上げます。
生命を生みだす母親は生命を育て生命を守ることをぞみます。を合言葉に歩みはじめて十八年になります。去る六月二十五日に行なわれました市の母親大会では次のことが話し合われました。
①乳児保育所設置連絡会をつくりはたらくお母さんが安心して働けるように乳児保育所設置の運動を更に進めましょう。
②延長保育に必要な保育士の増員を確保させましょう。
③学童の予防注射、○才児、七十才以上のおとしよりの医療費を無



植田・古谷栄幸

親子クイズ⑫

ご家族で話し合ってください。今月号の広報にてです。
▼もんだい
①表紙写真「今月の顔」は、〇〇保育所の幼児たちです。
②少年の非行化の原因の一つは、親の無関心、〇理解、放任主義だといわれます。
③市庁舎は、〇〇月25日に完成の予定です。
▼しめきり・8月20日(日)
▼おくりさき・南園市東崎、南園市役所内、広報委員会
▼しょうひん・特賞 2,000円 1人
残念賞 (記念品) 10人
■……第11回の正解者発表……■
▼こたえ
①県下では、昨年1年間に⑧⑩人もが水の事故で死んでいます。固定資産税、第2期の納期は7月③①日です。
③広報誌は、毎月①日に発行です。
▼特賞 2,000円 西山美恵(前浜) 残念賞 記念品 岩森玲子(立田) 前田恵里(植田) 溝渕恵子(大畑) 浜田聡(里改田) 清水明延(前浜) 川上節子(十市) 高橋佐知(植野) 土居和代(十市) 中島夏恵(十市) 北村光良(北小滝)



課長対話

国民年金の任意加入

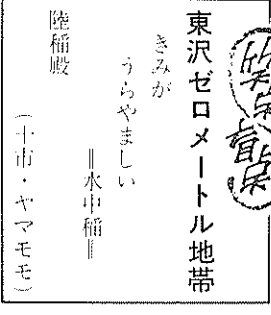
国民年金には、本人の意志に關係なく強制加入しなければならぬ人と、そうでない人があります。
国民年金には、義務ではないが、本人の希望で加入できる場合があり、こういう人を「任意加入被保険者」といいます。
任意加入のできる人は、年令が二十歳から五十九歳までの日本に住んでいる日本人で、つぎのどれかにあてはまる人であれば良いわけ

おこたえします

国民年金制度には、義務ではないが、本人の希望で加入できる場合があり、こういう人を「任意加入被保険者」といいます。
任意加入のできる人は、年令が二十歳から五十九歳までの日本に住んでいる日本人で、つぎのどれかにあてはまる人であれば良いわけ



⑧高知空港拡張、ジェット機公害騒音による影響を調査、研究させましょう。
このほか、中教審の問題、くらしの中でも、特に、深刻化する公害の問題など、熱心に話し合われました。このように、日本中のお母さん方の、色々の要求や、活動の一つにする統一の場として、延べ三万人に近いお母さん方が毎年集まります。みんなが、しあわせに暮らせる、明かるい世の中を作るために、多くの方々の参加を



東沢ゼロメートル地帯

ヨーロッパの印象 最終回

ヨーロッパ諸国と、デンマーク、スウェーデン、英、仏、スイスを廻り最後にイタリーを訪れた、ローマは古代ローマの遺跡を大切に保存しており、コロシナム、フォロローマーネの遺構、市内至るところにある大噴水と彫刻に魅せられ、キリスト教の総本山、ヴァチカン宮殿の荘厳華麗さには目をみはりました。
しかし、それぞれの国の実情をよく知るためには、都市だけでなく、農山村に足を伸ばす必要があります。イタリー中南部の山々は、その大部分が不毛の岩山ばかりの

先進国と低開発国の

谷間の国で

けられるので用心しろと教えられて来たが、たしかにその様な事実もある。ローマより五十キロ離れたサンピエトロの街を訪れたとき、村長さん駐在さんをはじめ村民総出で夜遅くまで温かい接待を受けた。イタリー人は、本来陽気で楽

まっています。そして大会成功のため、より一層のご支援をお願い致します。
21日、仙台市で、18回高知県母親大会、九月十日、高知短大、九月十一日、農協会館で、今井 茂子(市母親実行委員長)
……市民の広場では、行政に対する市民の意見や要求。行政について質問、そして俳句、短歌、川柳、コントなどの文芸作品の投稿をまっています。しめきりは、毎月十日広報委員会までです。

トラクター税の廃止

トラクターに、けん引装置のあるものは、乗用車なみに税金がかかっていますが、いまや自動車車の普及で、トラクターに乗るものは全くありません。時代の要せんとともに、トラクター税は廃止すべきではないでしょうか。
里改田・横田 実(農業)

おこたえします

農耕作業用小型特殊自動車(いわゆるトラクター税)は、条例の規定で、年額千円となっています。現在の課税基礎は、約十年前の調査、届出によるもので、その後



の取得届出はほとんどなく、原動機付自転車のようになり、一見してわかる標識もつけていないため、調査も十分できていないといえます。また、乗用装置の有無で、課税、非課税が決まられることになっており、その当時は乗用に使用していても、現在はほとんど使用していない状況です。
四十七年度のトラクター税は、四十二万円で、軽自動車税の一、八割でしかありません。
このような状況のため、来年度からは、四輪の乗用型のはが、非課税にするようにしたいと思っております。
税務課長 唐君白竜